

## 今月の一枚



修正会のお勤め（1月1日、順慶寺本堂にて）

### ◆◆ 一年始めのお勤め ◆◆

順慶寺では、大晦日23:45から本堂で正信偈をおつとめをする伝統がある。お勤めをしながら正月を迎えることから、そのまま修正会となって、新年のお勤めとなる。報恩講よりも軽いお勤めの内容だが、声の張りは、報恩講なみに張り上げ一年のスタートをきる。

# 順慶寺だより



印刷・発行 順慶寺  
2026年(令和8年)

## 2月号

VOL.388

### ◇ うわべだけの言葉 ◇

二月の釈尊の言葉は、『ダンマパダ』より、

「先ず自ら、

相応しい振る舞いを身につけよ。

それから他人に教えなさい、

賢者は汚れてはならない」（第一五八偈）

からの出典です。

ここではまず、自らの振る舞いを正しく整えること、そうしないと、他人に物事を教えることはできないと教えて下さいます。

また、『ダンマパダ』では、続いて、

「他人に教えるように、

同じように自身にすべきである。

実によく自制ある者となって訓育せよ、

自己は制御しがたいものだから」（第一五九偈）

他人にものを教えるときには、自制のある者となっていないと教えることができない、思いがふらふら変わるようでは、他人に物事を伝えられないと教えています。

ある意味当たり前のことですが、自分の身の上に取り当ててみると、自分の身を律すること



### 今月の釈尊の言葉

先ず自らを  
正しく制御せよ  
そして人を教えよ



『ダンマパダ』  
158 偈より

### 若院のテーマカット NO.79



は実に難しく、なかなかできないことと実感させられます。

さて、今月の言葉は、ウパナンダという長老の話から出ています。

ウパナンダ長老は、説法がうまく、人々を感動させることが上手でしたが、そのお礼として施された布施をもらうことに慣れて、次第に高価なものを好むようになっていったと言います。

あるとき、二人の見習いの比丘が上下の衣と毛氈を奪い合いになっていました。それを見たウパナンダ長老は、「では私が分けてやろう」と言って、上の衣と下の衣を二人に与え、自分が

高価な毛氈を持っていました。これに腹を立てた比丘たちが釈尊に相談すると、釈尊は、ウパナダ長老に、「他人に教訓するものは最初に自分がそれに相応しいものになるべきです」と、うわべだけの言葉で人を導き、自らの行いを省みない、ウパナダ長老を叱責したと言います。

### ◇自ら信じ人を信ぜしむ◇

「自信教人信」という言葉は、善導大師の『往生礼讃』というお聖教から、親鸞聖人が大切に頂かれたお言葉で、「自ら信じて人を信ぜしむ」と訓読されます。このお言葉、いっけん簡単に思われますが、実は難しいことです。私も含めた多くの場合、仏教にご縁ができてからも、經典や仏語を自分なりに解釈したり、先生の解釈を引用したりして、人に説明できるように

なれば、内容を理解したように感じてしまい、かたをつけてしまいます。しかし、こうして出来上がった自分の解釈を、人に伝えたり、語ったりしても、人に感動を与えたり、深い領きを与えたりすることはほとんどありません。おそらく、こうした自分に都合のいいことだけを集めて、語っても人には伝わらないものだからです。おおよそ、仏教の教えは、真理との出遇いであるため、自身が肯定されることは稀です。逆に、現に存在する自身のありようを鋭く指摘されることが多く、実は避けて通りたいものです。換言すれば、自ら信ずるとするのは、我を離れて、他者の言葉を受け容れることで初めてなされることなので、実は重く、うけとりがたいものです。釈尊の言葉のごとく、先ず自身はどうなのか、これが問われます。

### ①【ウパナダ長老】

釈迦の弟子の中で、悪事や非法行為を働き、釈迦や弟子などを困らせたと思われる六人（六群比丘）の弟子たちの一人。ウパナダは、釈迦族出身であるが、ときに説法せず巧みに衆人より衣の供養を受けて貯え、雨期には雨となるとわざわざ衣の施が多い所へ移り安居して問題を起した。釈尊の教団では、欲が多くて智慧が足りない人だっ

### ②【自信教人信】

「自信教人信、難中転更難、大悲伝普化、真成報仏恩」(善導大師『往生礼讃』初夜礼讃偈)の中の一節。自ら信じ、人をして信ぜしめることは、難しい中さらに難しいことである。大悲の心を伝えてあまねく教化することが、真に仏恩に報ずることである、との意味。善導大師の語る、僧侶としての基本姿勢を示している。(浄土宗大辞典より)



親鸞さまは寒い冬、流罪の新潟でご苦労されたと聞きました。どんな様子だったんでしょうか。



親鸞聖人が越後に御流罪になられたことをよく知っていましたね。

ことは、承元元年(一二〇七)。住蓮・安楽という法然上人の弟子が、念仏の集會を催したところ、後鳥羽上皇に仕えていた女官数名が、その集會に参加し、念仏こそ救われていく教えであると出家してしまいました。これに怒った後鳥羽上皇が住蓮・安楽ら四名を死罪に、法然上人をはじめ七

名を流罪にしてしまいました。親鸞聖人もその一人で、越後、今の新潟県の国府に配流となりました。まだ、北陸の風雪の厳しい二月。北陸路を簑笠、草鞋に脚絆という厳しい出立ちでした。越後の罪人生活は、過酷そのもの。最初の一年は、役人が監視しているあばら屋で軟禁され、誰とも会うことがゆるされず、食は一日米一升、塩一勺だけで生きのびる生活。二年目の春になって、ようやく種籾をもらい、以後はそれをもとに自活することを強要されました。もちろん、耕作のしやすい土地が与えられるわけでもなく、荒地を耕すところからはじめていくわけです。

栄養も失調し、着るものもなく、雨風もともに防げないあばら屋で、四年もの日々を過ごせたのは、念仏する生活があったからでしょう。

### お寺とともに

#### 「梅の花」



二月。まだまだ寒いこの季節に、美しく咲く梅の花。梅の花が咲くと、つい亡くなった老院のことを思い出してしまいます。

住職を若院(現住職)に譲って老院となつてから、嬉しそうによく梅の名所に出かけていきました。「どうして桜じゃなくて、梅なんですか?」

と、尋ねてみると「梅の花は奈良時代に中国から伝わって以来、文化的にとっても日本に根付いているからね。それに寒い二月に静かに咲く姿は見えてとても落ち着くから」と。

そう言えば、三月に咲く桜の花は、強い風で一斉に桜吹雪となり、美しくもあり何か物悲しさのようなせない気持ちになります。お寺の仕事も年度替わりの時期で忙しく、二月のようにゆつたりと花を愛でることができません。

今年の五月には早くも七回忌を迎えます。前よりは少し落ち着いてお参りできればと思います。



### 《第七〇回 年越し勤行》

順慶寺では、年越しの勤行を深夜に行っています。小さい頃から年越しの勤行に参加してきたため、年越しの瞬間を別の場所ですごしたことがありません。友人から「年越しにどこ

このカウントダウンに行ってきたよ」と聞かされると、羨ましく感じたこともありましたが、今ではそのように思うことはありませんが、年越しを迎えるたびに、ふとこのことを思い出します。



## 修正会で今年の目標

# 『正信偈』を精一杯の声で唱和

例年通り、大晦日23時45分より、順慶寺本堂では、年越し勤行をおつとめました。

昨年に続き、年越しにしてはあたたかい日となった今年の大晦日。本堂には、百人を超える参詣者が集まりました。23時45分に除夜の鐘の打鳴し始めると同時に、正信偈のお勤めを唱和し始めました。



修正会のおしるご接待（1月1日、順慶寺本堂にて）

から実現された格好。この上もないスタートとなりました。

お勤めが終わると、例年通り、住職、責任役員、護寺会会長の年頭挨拶があり、その後、各自、本尊の前でお焼香し、お屠蘇、おしるごの接待を受けました。

帰りには、例年通り、住職の年頭の言葉を入れた菓子袋が配られました。

## 今年も開催 新春寺力つエ寄席

このところ恒例となった、新春寺力つエ寄席。正月はじめの寺力つエは、愛教大落語研究会の皆さんのボランティア出演による、落語寄席が決まり。今年も1月11日午前10時から順慶寺本堂で開かれました。

今年の寄席は、光家準さん、愛教亭海老ノ介さんのお二人。ともに愛教大の学生さんで、ご両親も駆けつけられたお座は、玄人仕込みの熱演で、本堂に来られた寺力つエのお客さんも大いに喜んで、楽しい時間となりました。



愛教亭海老ノ介さんの落語（1月11日、順慶寺本堂にて）

この菓子袋を楽しみだとして来られる方に聞いてみると、自宅に帰ってから、住職の言葉を仏間の横に飾り、家族に見せるのだそうです。

なお、今年の住職の年頭の言葉は、

「これからが

これまでするめる」

（令和八年カレンダール巻頭言より）

そう、明日とは、

明るい日という意味だった

という言葉でした。

## 一月度護寺会物故者

### 豊裁院釋尼光華

1月7日寂 岡本光子(73)

市場上組 岡本裕一郎様の母

### 滋明院釋尼郁心

1月16日寂 横山郁子(87)

今川西組 横山孝二様の義母

### 願楽院釋尼昌華

1月22日寂 塚本まさ子(105)

知立市 塚本秋夫様の義母

### 釋尼貞華

1月25日寂 西守サダ子(82)

泉田町 遠山美由紀様の母

## 編集部短信

◆山門の松、伐採を決定 昨年8月終わりごろから山門の樹齢百五十年以上という門かぶせ松が枯れ始め、ついに枯死。原因は松食い虫による線虫被害。庫裏前の松も同時に枯死したことを受けて、他に松食い被害が及ばないようにするため、総代その他で協議した結果、1月末に伐採することに決した。

◆1月より北側駐車場の一部駐禁 1月19日より、順慶寺北側駐車場の一部が業者利用のため駐禁となる。駐禁となるのは、北側駐車場の北奥の一部（車4台分）。土日は使用されないため、大法要などほとんどの行事の参詣者や墓地の参詣者が利用するには支障はない。なお、期間は6月末日までの予定。

◆順慶寺門徒最高齢の方亡くなる 1月22日、知立市で川崎屋さんを営まれていた、塚本まさ子さんが逝去された。行年百五歳。百五歳という歳は、住職夫妻の仲人だった、名古屋

市の塚本もろさんと同じで、順慶寺過去帳に江戸期から記載されているなかで最高齢となる。

## 編集雑記

年末と元旦にNHKテレビで「西本願寺 伝統と葛藤」という番組が放送されました。実は、年末に見逃し、偶然、元旦の放送を見て知りました。内容の深刻さに釘付けとなり、見入っていると、家族も全員釘付け状態。その後、多くの門徒の皆さんから、あれ見たか、と指摘され、再びひとりネットで見聴しました。お寺の窮状をルポしているの、実感しやすく、宗教は伝統だけではないことを痛感した番組でした。（住）

このごろ、雪がちらつく日も見られるようになりました。朝、車のハンドルを握る手が凍えてしまいそう、出かけるたびに少し億劫になります。毎年この寒さを越えてきているのですが、どうにも慣れないものです。（若）



# 2月の主な行事予定

日	曜	行事内容	掃除当番
1	日		
2	月		
3	火		
4	水		
5	木		木-1
6	金		
7	土		
8	日		
9	月		
10	火		
11	水	建国記念日	
12	木		木-2
13	金	定例責役総代会(19:00、順慶寺玄関)	
14	土		
15	日	観音堂報恩講(午前10:00～、午後1:00～)	
16	月		
17	火		
18	水		
19	木		木-3
20	金		
21	土		
22	日		
23	月	天皇誕生日	
24	火	総代OB会主催・バス旅行(高田本山、鈴鹿の森他)	
25	水		
26	木	岡崎教区21組・門徒会研修(13:30、東境町・泉正寺)	木-4
27	金		
28	土	宗祖聖人御命日(7:00、順慶寺本堂)	
3/1	日		

## 2月行事内容 詳細

### 二十一組門徒会研修

2月26日(木)

午後1時30分 泉正寺(東境町)

講師 岸超氏(能登教区浄明寺)

議題 「苦悩の中から」

岡崎教区二十一組の門徒会研修が、2月と3月に亘って開催されます。本年は、一昨年の正月に発生した令和6年能登半島地震により、大きな被害を受けた、能登地域の大谷派災害支援チームの代表をしている、若院さんにお越し頂き、現場の苦しみや復興の内容などについてお話いただく予定です。

総代OB会主催 新春バス旅行  
しだれ梅の名勝と三重路を行く旅

順慶寺総代OB会では、来たる2月24日に左記のような新春バス旅行を企画しました。三重の世に名高い鈴鹿の森公園しだれ梅まわりに合わせて、三重の高田本山や椿神社を参拝します。要項は左記の通り。申込書詳細は順慶寺まで。

#### 【募集要項】

日にち 2月24日(火)

目的地 三重(高田本山・専修寺・鈴鹿の森公園・椿神社ほか)

会費 一四,〇〇〇円(鈴鹿の森しだれ梅まつり入場料込)

申込 会費を添えて順慶寺まで

必切 2月13日(45名まで)

## お知らせ

### ●2月の寺カフェはお休み

毎月1日に開催しています寺カフェですが、例年2月は冬期お休みとさせていただきます。今年も、2月はお休みとし、3月1日から再開します。くれぐれもお間違えのないようお願いいたします。

### ●各例会の冬休みについて

例年1月から3月まで順慶寺で行っている例会は、冬期休みとなっております。4月よりすべ

ての例会を再開する予定にしています。

### ●総代OB会主催バス旅行について

上記にありますように、2月24日に計画されているバス旅行は、現在参加者を募集中です。申込書順慶寺にあります。旅行代金を添えて、期日までに順慶寺まで申込ください。参加申込された方には、直前パンフレットを郵送させていただきます。

### じゅんこのときめき歳時記

## ユキワリソウ

寒中になりとても寒くなってきました。風邪などは大丈夫ですか。

2月になると途端に節分がやってきて、春になります。まだとても寒いので少し早いのではないかと思います。草花にとって、次第に日差しが増していい季節になるようです。

寒さの残る春浅い季節から咲き始めるのが、ユキワリソウ。冬の間、雪に閉ざされた新潟の里山などでじつくりと春を待ち、気温が上がると、日差しを浴びるようになると、そっと蕾をのぞかせます。田んぼのあぜ道などに自生しているので、とても強い草花です。ユキワリソウは、白のほか、赤、桃

### 雪を割る

力は見えず雪割草

竹下陶子

